

兵庫県立西宮病院

地域医療連携室便り

2007年12月
第7号

NICU 加算を取得するまでの当院の未熟児医療の歩みについて

小児科部長兼医療安全対策担当部長 安部 治郎

兵庫県立西宮病院は現在地に、昭和11年1月に兵庫県立西宮懐仁病院として、内科・外科・産婦人科・耳鼻咽喉科の4科、50床で開設されました。昭和16年8月に小児科と眼科が新設され、昭和22年5月に現在の名称である兵庫県立西宮病院と改称されました。

その後、昭和36年に20床からなる未熟児センターが併設されましたが、経鼻持続陽圧呼吸装置のみでの呼吸管理でした。現在のような呼吸管理は昭和58年に初代のゼクリスト人工呼吸器を導入してからです。丁度その頃から新生児呼吸窮迫症候群に現在も行われている、人工サーファクタント補充療法が一般的となったからです。

私が着任した平成2年頃は入院200例で年に数例の症例に呼吸管理をする程度でした。平成9年4月から新本館の完全稼動になり、未熟児センターも14床で呼吸器3台を持ち、年間100日程度の人工呼吸管理を行っていました。

その後他院のNICU（新生児集中治療室）で修練を受けた人が、当科に勤務するようになり、平成18年では入院410例、低出生体重児（2500g未満、90例）、極低出生体重児（1500g未満、10例）、超低出生体重児（1000g未満、1例）、人工呼吸管理15例、心疾患15例などで年間150日程度の重症新生児当直をしていました。

しかし、当直の無い日も病的新生児の分娩で週の半分は呼び出しがあり、スタッフの疲労・心労が出て来ました。

そこで、病院の収入増と小児科のレベルアップの気運が高まり、1人1日8500点の加算の取れる新生児特定集中治療室管理料（いわゆるNICU加算）の取得を目指しました。毎日の医師の当直と施設基準合致のため、人員増と改築により本年6月よりNICU3床で稼動出来ました。病床稼働率約98%とほぼ満床です。その他11床のGCU（新生児病床）をNICUから退出した児のケアやより大きな児のケアに使っています。

開設後早速26週の超低出生体重児の入院があり、呼吸循環の管理で苦労しつつも、専攻医などの力量アップの糧となりました。

ただ、小さな子どもは日々の状態変化が激しく、超音波装置で心臓や脳を毎日観察し、治療方針を立てなければなりません。幸い昨年心臓も詳しく診れる超音波装置の更新が出来たのが、NICU加算を目指す大きな後ろ建てとなりました。

しかし、より安心して治療が出来るには、まだ人工呼吸器や保育器やモニター類が不足しています。

また現在多い人で8～10日も当直しており、モチベーション保持のためには、スタッフの増員が望まれます。

近隣病院の産科や新生児医療の撤退により、当院では年間分娩数が平成17年までの約600分娩から平成18年の約800分娩までに増加しています。



また、生殖医療の進歩より多胎分娩も増加しており、今後も NICU の需要は増して行くと思われます。

理想的には小児外科などの近隣医療を併せ持つことが望ましいのですが、現実的には困難です。

しかし、眼科や耳鼻咽喉科や脳外科や整形外科などにお世話になる症例も少なからずあります。

NICU は小児科だけでは成り立ちません。西宮病院の全科や看護部や多くのコメディカ

ルの人々、事務スタッフのバックアップをよろしくお願いいたします。

また、他病院の産婦人科や小児科および開業の産婦人科医院や助産所の方々でお困りの新生児がいらっしゃれば、ご遠慮なくお尋ね下さい。

小児科のご案内

県立西宮病院小児科について

小児科部長 山本 勝輔

当院小児科についてご案内申し上げます。現在当科には安部、山本、小泉、村井の4人の常勤医と沖田、下川の2人の専攻医（後期研修医）の計6人のスタッフがおります。外来は2診制で、各スタッフが1～2回受け持つ形となっております。午後診は予約専用の専門外来となっております、それぞれ得意分野での診察を行っております。（詳細につきましては当院ホームページをご参照ください。）

一般感染症の治療が中心となっておりますが、神経疾患・腎疾患・気管支喘息・川崎病・心疾患などに関しては特に力をいれており、脳波検査、腎エコー、VCG（排尿時膀胱造影）、スパイロメーター、心エコーなどは外来での施行が可能です。ご紹介の際にはご参考になさってください。また、本年から NICU が稼働しております。（それに関しては別に述べております。）

一般小児科病棟は当院6階病棟で、産婦人科・外科等との混合病棟です。小児科として、4人部屋を二つと隔離室を確保しており、そのほか、個室や他病棟の利用によって、できる限り緊急入院への対応ができるようにいたしております。

入院時の主治医には後期研修医があたり、同時に担当医として初期研修医があたるようにしております。

1日2回のカンファレンスにおいて問題症例の検討を行っており、上級医の指導の元、確実な精査加療を行うよう心がけております。

地域の先生からご紹介いただいた患者様に関しては、入院時と退院時にご報告いたしておりますが、もしご不明な点がございましたら、是非ご一報ください。研修医への指導不足をご指摘いただくと共に、今後の研鑽の糧といたしたいと存じます。

近年、病院小児科勤務医が減少している中、幸いにも当科は今のところスタッフに恵まれております。今後、地域に密着した病院小児科としてさらなる発展を考える上で、地域の先生方のご協力

は不可欠であると考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

小児科の救急体制について

小児科医長 村井 竜太郎

当科では、今年度から2名の新戦力が加わり計6人体制で様々な救急疾患に対応して参ります。また、3床のNICU認可を得て、設備もリニューアルされ早産児、低出生体重児（在胎26週以降）など今まで以上の対応が可能となりました。

しかしながら、小児外科疾患・心疾患・血液疾患については当科での対応が困難であり、他院での精査加療をお願いしております。あらかじめご了承ください。

夜間小児救急診療は木曜日、土曜日の18時から翌日7時まで行っております。平日午後の外来は予約診療のみですが、ご連絡を頂ければ可能な限り救急疾患にも対応させていただきます。

なお、感染症の流行期等には、対応できる病床数に限りがございますので、あらかじめ隔離が必要と思われる患者様のご紹介に際しては、事前にご一報頂ければ幸いに存じます。

これからも地域の小児科中核病院として小児科一同頑張っておりますので、宜しくお願い致します。

未熟児センター

5階看護長 檜垣 美香子

今年度6月から新生児特定集中治療室管理加算（NICU加算）を3床取得し、本格的にNICUとして動きだしました。看護師のスキルアップを図り、NICUにおける急性期ケアに対応できるよう、こども病院の見学や研修参加を行い、NICU看護に必要な知識・技術の向上に励んでいます。NICU加算取得後、26週で院内出生した超低出生体重児2名をケアする機会がありました。呼吸・循環管理、スキンケア等初めて経験することもあり緊張の連続でしたが、全員で最善のケアが提供できるように取り組むことができたと思っています。また、これを機会として患者・家族の視点に立ち、業務の見直しにも取り組んでいます。今後は、今まで大切にしてきた家族の思いに寄り添う温かみのある看護をベースに、『医療安全の保障、患者・家族との協働、Developmental careの充実』をめざしています。そして、阪神間の地域協力病院として、地域との連携を深め、24時間体制で搬送受け入れがスムーズに行われるよう努力していきたく思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。



ご案内

下肢静脈瘤の治療について

外科医長 谷口 仁章

冴子は、透き通るような白い肌をしていた。徹は、冴子の腿を撫で上げた。そこには、艶かしく光る、青白い血管が網の目のように透見された。ふと冴子は徹の手を払いのけ、立ち上がった。すると、青白かった血管たちは、力をみなぎらせ、所々、赤黒く怒張しだした。「なんじゃ、こりゃ!!」

そうなんです。これが、下肢静脈瘤なのです。

下肢静脈瘤は、静脈弁の機能不全により、立ち上がることで、静脈血流が逆流し、瘤を形成します。徹が驚いたように、外見上、かなり目立つことが多いものです。しかし、問題は、外見上の美容的なものではありません。冴子は、足のむくみやこむら返り、下肢の怠さ、痛みに悩まされているはずで

す。下肢静脈瘤の患者さんは、見た目以上に種々の症状に悩んでおられます。命に関わる、などと、思われがちではありますが、よくよく話を聞いてあげてください。

治療法は、軽度の場合は、弾性ストッキングによる圧迫から、状況に応じて外科治療となります。抜去、高位結紮、硬化療法などを当院にてはおこなっております。手術適応は、下肢静脈超音波検査にて決めております。ご紹介いただければ、手術適応、治療方針など決めさせていただきます。

治療後、冴子と徹も、いまは楽しく過ごしていることでしょう。

医師移動のお知らせ

平成19年10月に新しく赴任しました医師をご紹介します。

内科部長 西浦哲雄

私は本年10月に広島県の国立病院機構呉医療センターから赴任してきました。昭和56年大阪大学卒業後、第二内科血液研究室に所属し、平成13年から国立病院機構呉医療センターで6年間在籍しました。

呉は広島市から南に約30kmの呉湾に面した人口20万の都市です。ご存知のように旧海軍の軍港で戦艦大和の母港でした。呉医療センターは旧海軍病院に始まる700床の地域がん拠点病院でした。

呉では中国がんセンターとして造血器悪性疾患の治療に携わり、特に造血幹細胞移植に精力的に取り組み、通常の血縁者移植だけでなく、高齢者を対象とするミニ移植や母児間免疫寛容を応用したHLA不一致移植など年間10例前後の造血幹細胞移植を行ってきました。平成16年には呉医療センターは広島県では3番目の骨髄バンクの移植施設に認定されました。

国のがん政策医療の一環として病院全体で積極的に固形がんの化学療法と緩和ケアの充実に取り組んできました。

外来化学療法の実践のため外科、内科医は科を超えて積極的に協力し、私も化学療法の専門医の一人として固形がんの化学療法や若手臨床腫瘍医の育成に努めてきました。さらには緩和ケア科の兼任医師としてがんセンターでの疼痛管理に関わってきました。

広島県は緩和ケアの充実に県全体として積極的に取り組んでおり、特に在宅緩和には県立病院の緩和ケア科が中心となつて病院、開業医間とのネットワークを積極的形成していました。

呉でのこのような取り組みは関西においてもこれからますますその必要性は増すと考えられ、呉での経験を生かし頑張りたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

トピックス

☆禁煙外来を開始しました

当院は平成19年4月より敷地内禁煙となりました。それに伴い、敷地内禁煙の徹底と、禁煙による患者様の健康サポート目的で、禁煙外来（保険診療）を開設いたしました。禁煙を希望される患者様がいらっしゃいましたら紹介をお願い致します。

診療時間：毎週月曜日 14時～16時（完全予約制で初診の診療時間は約30分間）

診療場所：内科外来 担当医：内科 三木、久保

診療内容：

全身状態の把握、喫煙状況の把握、ニコチン依存度の評価、呼気COモニター、禁煙方法の解説、ニコチンパッチの処方、次回受診日の確認。

治療に要する費用：

3割負担保険診療での自己負担分として約12,000円（計5回の受診、薬剤費を含む）

予約・お問い合わせ：地域医療連携室および内科三木、久保まで
保険診療の対象者は、下に示す条件全てに該当する方となります。

1. 直ちに禁煙をしようと考えている方
2. ブリンクマン指数（1日喫煙本数×喫煙年数）が200以上である方
3. 初診時、禁煙開始2、4、8、12週間後の5回の禁煙外来受診に同意される方
4. ニコチン依存症のスクリーニングテストが5点以上である方
5. 禁煙治療を受けることを文書で同意される方

尚1年後に禁煙が継続されているか否かについての聞き取り調査をさせていただきます。現在までに受診された方は27名（7ヶ月間）で、禁煙成功率は6割程度です。保険診療の条件を満たさない方でも自由診療は可能ですので、特にご希望の方はお問い合わせ下さい。

（詳細については、ホームページをご参照ください）



☆第1回公開講座を終えて

看護部主任会

数年前より看護部では主任会を中心に看護師が無理なく患者様に安全で安楽な体位変換が提供できるようボディメカニクスに取り組んできました。

今回、一般の方々（介護している人、これから介護する人、興味のある人）が少しでも無理なく体位変換や車椅子移乗が行え介護者の負担を軽減できればという思いのもと、第1回県立西宮病院県民公開医学講座「無理のない介護方法」を開催しました。参加された方々からは、『身体に負担のない援助が学べ早速自宅で行いたい』と、意欲的な言葉を頂戴しました。

今後もこういった機会を持ち在宅に戻られる患者様やご家族の方に少しでも不安なく過ごして頂けるよう取り組んでいきたいと思っています。

— 編集後記 —

寒さがひとしお身にしみる頃となりました。何かとお忙しい中、地域連携室便りをご覧いただきましてありがとうございます。

本年、当院では『地域医療連携室・医療相談室』の拡充、『地域医療連携シンポジウム』の開催、『地域医療連携パス』導入準備など、昨年に引き続き地域の皆様との連携をより深められるよう取り組んでまいりました。薬剤部も4月から地域連携ワーキンググループに参加させていただいております。残念ながら、グループの一員としてお役に立てたということがまだないのですが、院内の様々な職種が「地域連携」に関わっていくことが大切ではないかと感じております。

現在、当院では来年度の電子カルテ稼働に向け、全職員が協力して準備を行っているところです。新システムにつきましては、次号の地域連携室便りでご紹介する予定です。

もうすぐ一年も終ろうとしています。来年も皆様にとって素晴らしい年でありますようにお祈り申し上げます。

（薬剤部 横田 聖子）



兵庫県立西宮病院

〒662-0918 西宮市六湛寺町13番9号
電話(0798)34-5151(代表) FAX(0798)23-4594
地域連携室直通 FAX(0798)34-4436
地域連携室 E-mail chiki-kn@hp.pref.hyogo.jp